

特別活動〔学級活動〕学習指導案

日時 平成16年9月14日(木)5校時
場所 普代中学校1年A組教室
対象 1年A組(男子15名 女子18名 計33名)
授業者 佐藤 和博

- 1 目指す目標と内容
「**集団や社会の一員としてよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる**」
「**個人及び社会の一員として在り方、健康で安全に関すること**」

- 2 題材名
「 **大地震に備えて** 」

3 題材について

(1) 題材の内容について

本校が所在する普代村は、太平洋に面しているという地理的条件から地震の巣といわれる三陸沖が目の前に存在する。過去の三陸沖を震源とする地震では大きな津波も発生し、多くの犠牲者を出している。昨年も大きな地震があり、津波警報が発動されたという状況や、昨今の研究では、宮城県沖で大地震が発生する確率が今後20年以内に85%以上という将来的な予測も考えると地震、と特に津波に対する備えは十分に行っておく必要がある。また、今年度は日本各地で台風・集中豪雨などが多く発生し自然の脅威をまざまざと見せつける結果となった。いつ何時災害に襲われるか日頃の備えが問われるものである。

8・9月は、阪神大震災や関東大震災の教訓を生かすため、全国的にも防災に対する取り組みが行われているが、学校現場の中の指導では軽く扱われているような気がする。学校の危機管理にもかかわる事項であるが、なにより生命尊重という道徳的な価値や社会の一員として自分たちが何をすべきなのかをこの題材を通して学ばせたいと考える。

(2) 生徒の実態

この学級は4つの小学校から入学した元気あふれる生徒たちで構成されている。新しい学級集団となって1学期を経て、中学校の様々な行事を経験し小学生気分から脱却しつつあり、リーダーを中心とした組織だった動きも徐々に軌道に乗りつつある。

これまでの学級活動では、話し合い活動を中心に学級の課題に対する対応や組織決めなどをメインに行ってきた。今回のような安全に関することについては、避難訓練として1学期に火災を想定したものを1回実施しているだけである。そのときの状況は小学校での学習の成果が現れ、避難も素早く静かに行え概ね良好であった。しかし、訓練に対する緊張感や集団の一員として避難の在り方(戸を開閉や避難行動順など)には課題が残る。また、地震・火災に対する訓練は小学校でも行っているが、学校として津波に対する学習を行う機会にはほとんど接していない現状がある。

(3) 指導構想

本題材の指導に当たっては、日頃、漫然と行っている避難訓練の事前指導をしっかりと行うことで、不意の災害時に命を守るための術を学ばせ、いざという時に集団の中で自他の命を守るための適切な行動ができるようにさせたい。そして、防災は日頃からの備えこそが大切なことを気づかせたい。また、中学生という立場で災害時に地域社会の一員として何ができるのかを考えさせ、自己を生かす能力を伸長を図るようにする。

また、その際、この題材を学級活動で行う意義を鑑み、社会性を身につけさせる視点も忘れずに、その手段としての話し合いの場面を大切に扱い、練り合い、高め合いを行わせ、話し合いの良さについても気づかせたいと考える。その他に、次のような手だてを組み、わかる授業を展開することで、最終的には、社会の一員として、よりよい生活を築こうとする自主的・実践的な態度を育てるという目標に近づけたいと考える。

生徒同士の関わり合い	話し合い、高め合い、練り合い
学級活動と学校行事のリンク	体験の場の確保
身近な資料の効果的な活用	興味関心の高揚、具体物の使用、視聴覚機器の利用
各教科との関連を図る	社会科、理科、保健体育科

4 題材の目標

- ・不意に襲ってくる大地震に対して、万が一に備えることの必要性についての意識を高める。
- ・大地震に伴う災害発生後、中学生としてできる地域での活動について考え、ボランティア活動の大切さについて意識を高めることができる。

5 指導計画(単元4時間)

- ・避難訓練にむけて身近な自然災害を知る 1
- ・地震・津波災害の避難方法について考える 1 (本時)
- ・避難訓練を行う 1
- ・避難訓練の反省・地域の中学生として自分たちにできること 1

6 本時の指導

(1) 本時の主題 「地震に備えよう」

(2) 本時の目標

過去に地域で起きた地震・津波災害の現状を通して、災害の恐ろしさを感じ、災害が発生したとき、自分はどのような行動をとるべきかを考え、集団の中の一員としての適切な避難行動について理解できる。

(3) 評価規準

- ・地震災害時の避難行動について意欲的に追究しようとしている。〔関心・意欲・態度〕
- ・災害時のよりよい行動について、自分の考えを持ち話し合いに参加できるとともに集団の中での避難行動で大切なことを考えることができる。〔思考・判断〕
- ・地域の状況をふまえ、集団の一員としての適切な避難について理解している。〔知識・理解〕

(4) 具体の評価規準

	具体の評価規準	支援を要する生徒への手だて
【関心・意欲・態度】	災害を身近な問題と捉え、避難行動について、グループで積極的に話し合い、学んだことを、避難訓練に生かそうとする。	身近な題材を利用することで、興味関心を抱かせるとともに、学習プリントを利用して学ぶ視点を明確にさせる。
【思考・判断】	自分の考えをしっかりと持ち、他人の考えと自分の考えを比較しながら、集団の一員として、どのような行動をとることが望ましいかを考えている。	資料を見る視点を与えながら、気づきを促すとともに、班での話し合いにの場において、他の生徒の考えを聞くように支援していく。
【知識・理解】	集団の一員として、適切な避難行動の仕方を理解している。	避難行動

リーダー層の生徒や深い考えを持っている生徒への期待

根拠をはっきりさせながら自分の考えを述べたり、他の考えについて積極的に関わりながら話し合いを進めている。

避難方法等について、実際の災害を想定し具体的な状況に応じた理解をしている。また、そのことを生かしながら他の生徒との関わりをもって学びを進めている。

(5) 学習形態の工夫およびねらい

よりよい避難行動は何かを練りあうために、班隊形での関わり合いの場を2回持つ。

期待する関わり合いのすがた

- ・リーダーを中心として話し合いを進め、それまでの建前的な議論から具体的な身近な問題として災害を捉えながら議論を進めている。
- ・班員全員が自分の考えを持ちながら話し合いに参加している

(6) 本時の展開
 : 関わり合いの学習 : 評価の視点・方法 : 配慮事項

段階	学習内容	学習活動	学習形態	指導上の留意点	資料等
導入 10	1 地震の被害について 2 過去の津波災害について	1 地震の被害について復習する。 2 過去に地元で起きた津波の被害について学習する。	全	普代村で怖いのは建物倒壊や火災もだが津波であることのおさえる。 津波の高さ、地震の起こる確率で関心を高めたい。 課題提示は紙板書で時間短縮	紙板書
展開 17 25 30 35 45	3 災害発生時の行動について 災害発生時行動パターン。 身体の保護 避難口の確保 危険物の処理 避難(集団) 人員の確認	3 行動順について予想し、確認する。 関わり合い1 災害時の行動パターンを考え、行動するとき大切なことは何か考える。	全 個 班	災害発生状況を具体的に提示したい。 個人で考えを持たせた上で交流する 学習プリントを使用し、効率的に話し合いを進めさせる。 自分の考えを持ち、話し合い参加できたか。 〔プリント 思考・判断〕	学習プリント
	4 発表・交流・確認	4 班ごとにまとめたものを発表し交流しあう。	全	津波警報発令時の避難場所の確認も行いたい	パソコン・プロジェクター
	5 実際の津波の恐ろしさと集団心理	5 地震の威力、津波の到達スピード等を知り、その恐怖と避難時の集団心理について考える。	全	阪神大震災の様子、津波CGによる津波の発生スピード、太田名部での被害、津波にあった人たちの体験談を使い、今までの建前的な考えを揺さぶりたい。場合によっては、教師自身の体験談(宮城県沖地震)も紹介したい。	
	6 集団全体のことを考えてよりよい避難の仕方	関わり合い2 パニック状態の中、集団の一員としてどのような行動をとるべきか考える。	個 班	自己中心的な行動が、2次災害を起こす可能性を考えさせたい。(リーダーの指示に従う、秩序を保つことの大切さなど) 災害を自分自身の問題と捉え話し合いに参加しているか。 〔観察 関心・意欲・態度〕	
7 発表・交流	7 班でまとめたことを発表し、交流する。	全	一人でも多くの人があるためにどうすればよいのかという観点で考えさせることで、自分勝手な行動が大変なマイナスであることに気づかせたい。		
45	8 今後の避難訓練に臨む姿勢	8 今後の避難訓練に臨む姿勢を書く。	個	避難方法について具体的に触れ避難訓練に臨もうとしているか。 〔関心意欲態度 ・思考判断、知識理解〕	
終末 48	9 まとめ	9 学習のまとめを行う	個	今日の授業の担任としての評価も加えたい。日頃の備えこそが大切であることを述べたい。	